PREMIER®
Your Pets, Our Passion®

クリックスティック

Clik Stik® Training Tool

アメリカで人気の
ドッグ・トレーナー
テリー・ライアン監修

トレーニングガイド

注意

落ち着きのない、あるいは攻撃的な愛犬には適さない場合があります。そのような愛犬は、飼い主や周囲の人に傷害を与える可能性があります。ご自分の愛犬に本製品を使用することが適切かどうかわからない方は、獣医師やプロのドッグ・トレーナーにご相談ください。

設計者、テリー・ライアンからのメッセージ

「クリックスティックはクリッカーと指示棒の2つの機能を兼ね備えているため、トレーナーは片手を自由にして、トレーニングに集中することができます」

テリー・ライアンは、国際的に有名なドッグ・トレーナーです。

クリックスティックのコンセプトは、D.I.N.G.O.（神奈川県横浜市）代表の新居和弥氏によって開発されました。

このたびはプレミアの製品をお選びいただき、ありがとうございます。本製品を正しくご使用されることで、愛犬の学習意欲を促進し、信頼関係を育むことができます。製品に関するご質問がございましたら、弊社ウェブサイト（www.premier.com）をご覧いただくか、カスタマーケアセンター（0120-208-278）までお問合せください。

製品保証を最大限にご利用いただくために、領収書を保管することで、製品に関するすべての保証が受けられ、お電話でお問い合わせいただいた際の迅速な対応が受けられるようになります。弊社はお客様の大切な個人情報を第三者に提供したり転売することは一切ありません。

目次

本製品のしくみ 4
特長 5
トレーニングガイド
準備―タイミングの練習 6
はじめてみよう―クリッカーのローディング 6
ターゲットスティックの導入 8
タッチシェーピング（反応形成） 10
行動のシェーピング 13
ランダム（不規則）なごほうび 14
分化強化 15
刺激コントロールと円滑さ 17
さまざまな用途にターゲティングを応用する 19
クリックスティックのさまざまな利用法 20
利用規約と免責事項 23

本製品のしくみ

合図として鳴らすクリッカー音の後に、おいしいごほうびを与える訓練方法は非常に効果的なものです。簡単であるばかりか愛犬にも飼い主にも好評で学習の成功率も高いのです。

ごほうびを用いたトレーニングにはさまざまな応用をきかせることが可能です。この小冊子は次の二つに焦点を当てています。

- クリッカーをごほうびの約束として使い、定着させる。
- スティックを使って飼い主が望む行動を促す。

クリックについて

この小冊子では「クリック」「クリッカー」という言葉で統一しています。ドッグトレーニングの世界ではクリッカーにいくつかの名称があります。主なものにはブリッジ、マーカーなどがあります。

ターゲットスティックについて

この小冊子の中でターゲットと呼ばれているのはこのスティックのことです。ターゲット・トレーニングにはたくさんの応用があります。例えば飼い主が愛犬に冷蔵庫に貼り付けるマグネットに鼻をくっつけるように教えたら、トリミング中にじっとしてもらえるようになります。あるいは愛犬に脚でシールを踏むことを教えたら、そのシールを別の場所に貼り付けて同じ行動を促すようにもできるのです。

ターゲットをカーペットの一部にしてもいいし、愛犬が動かす部位をお尻に指定してもいいのです。そうすれば玄関の戸を開いても愛犬が飛び出してトラブルに巻き込まれることもありません。

この小冊子で、飼い主は鼻でスティックにタッチすることを愛犬に教え、その方法を応用して愛犬にさまざまな行動を学習させることができるようになります。

特長

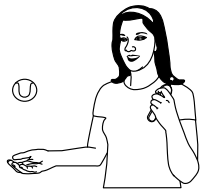
トレーナーが立ったままで最長の長さまで伸ばしたクリックスティックを握ると、ちょうど先端が小型犬の鼻先に当たる位置に来ます。

クリックスティックは伸縮自在です。先端を延ばさずに用いれば普通のクリッカーとして利用できます。

他のものに比べてクリックスティックのクリッカー音は打楽器のような響きを抑えてあり、敏感な愛犬のトレーニングにも対応できるようにしています。

ひとつの器具が二つの機能を併せ持っているためトレーナーの片手が完全に自由になります。訓練棒とクリッカーの二つを同時に操る時のように、どちらかを落としたり、なくしたりする心配がありません。

準備 — タイミングの練習



少し時間を取って、クリックするタイミングを練習してみましょう。愛犬のいない場所で練習してください。

まずテニスボールを宙に放り投げます。ボールが地面に着地した瞬間にクリックできるかどうかやってみましょう。最初にボールが地面にバウンドしたとき、そして二回目にバウンドしたとき、といったように連続でクリックしてみましょう。

もう一度ボールを宙に放り上げ、今度はボールが空中で一番高い位置に到達したときクリックしてみてください。あなたのタイミングはちゃんとそれぞれの瞬間をとらえていますか。最初は難しいかもしれません。クリッカーを使うにも練習が必要です。あなたが正しいタイミングをマスターするまで愛犬のいないところで練習してください。

はじめてみよう — クリッカーのローディング

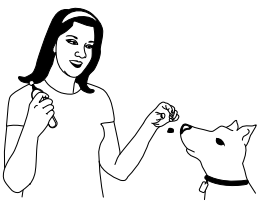
犬は関連付けを通じて物事を学習します。「クリッカーのローディング」とはクリック音＝ごほうびの「前ぶれ」であるという意味づけをあなたの愛犬に教えることです。クリッカーの威力を発揮するには次のシンプルな練習をやってみてください。

- まわりに気の散るものがない室内で、愛犬の注意を向けさせるため、必要に応じてリードを付けた状態で行います。
- 小さくて柔らかい、そしておいしいごほうびを用意します。1日あたりの摂取カロリー量や食物アレルギーに配慮してください。
- 縮めた状態のクリックスティック—ここではスティックではなくクリック音の機能のみを使います。

飼い主がスティックを脇、あるいは背中に持っても愛犬は十分にクリック音を聞き取ることができます。隠す必要はありませんが愛犬のまわりでスティックを振ったりするのはやめましょう。スティックを縮めておいてくだ

さい。愛犬は多分その存在に気づいているでしょう。今はスティック本体に注意を向けさせないほうがいいのです。あくまでも音に注目してもらいたいのです。

ごほうびになるフードを手に5個持ちます。クリック音を出してから1秒以内に、愛犬にフードをひとつ与えます。この動作を繰り返し、1回ごとにフードをひとつ与えます。これを2、3日間続けます。



愛犬が問題のない行動をしている、あるいは良い子にしているときをねらうことが大事です。愛犬が吠える、あなたにジャンプしてくる、手に噛みつく、など飼い主であるあなたが不適切と思う行動をしているときには決してクリックしないでください。ある特定の行動に対しずっとほうびを与えると、その好ましい行動をより頻繁に引き出すことが可能になります。

この時点ではまだ特定のふるまいや行動を教えません。愛犬に対し「クリック音を聞くと毎回ごほうびがもらえる」という関連性の一致を確認しているだけです。このクリック/ごほうびのセットはランダム（不規則）な間隔で行います。

ランダムリワード（不規則なごほうび）の例
クリック/ごほうび（5秒間あける）
クリック/ごほうび（15秒間あける）
クリック/ごほうび（8秒間あける）
クリック/ごほうび（10秒間あける）
クリック/ごほうび　5回終了！このセッションはおしまいです。

ほとんどの犬はこの関連性にすぐ気がつきます！何回か繰り返すうちに完全に愛犬の注意力をこちらに向けた、と実感できるでしょう。この時点では特に注意力を養う必要はありませんが、こちらを向いたのなら儲け物だと考えてもいいでしょう。

補足：ひとつひとつのクリックはそのあとごほうびが出てくるという約束です。この関係性は、しつけの上で強力な武器になります。この練習以外の目的でクリックスティックを使うと、関係性が弱まってしまいますので注意してください。

ターゲットスティックの導入

過去に棒状の訓練器具でいやな目にあった愛犬もいるでしょう。このステップは棒状のターゲットスティックを怖がるかもしれない愛犬や早く成果を出したい飼い主にとって効果が期待できます。

- まずターゲットスティックを縮めます。短い状態のターゲットスティックを片手に握り、すぐクリックできるように親指をクリッカーの上に添えます。
- 空いているほうの手で床にフードを置き、そしてターゲットスティックの先端でその食べ物にタッチします。愛犬が食べ物を取ろうとしてターゲットスティックと接触した瞬間にクリック音を出し、また別のフードを与えます。
- 食べ物に関心を示さない場合は愛犬をそのままにし、後でより静かな環境のもと、おいしいフード（ごほうび）を用意して再びトライしてください。愛犬がお腹を空かせている夕食前などがいいかもしれません。この一連の練習をステップ台の上や床以外の平面で繰り返し行ってください。

ここまで来たら、あなたは熱心で夢中になれる愛犬の飼い主、そして、おいしい匂いのするターゲットスティックの持ち主でもあります。愛犬がターゲットスティックを怖がっていないかぎり、このステップを一度以上繰り返す必要はありません。ここで何度も頻繁に繰り返してしまうと愛犬は「いい匂いのするターゲットスティック」と「匂いのしないターゲットスティック」を判別できるようになってしまうかもしれません。

反応がない場合はターゲットスティックを握り、声を出さずに3まで数えます。ターゲットスティックに対し愛犬からのタッチがない場合でもクリックしてごほうびを与えてからターゲットスティックを愛犬の見えない場所へ置きます。これをリミテッド・ホールドと呼びます。キュー（合図：ターゲッ

ヒント	愛犬の鼻先に対して斜めに向けてターゲットスティックを見せるようにしましょう。真正面からものをつきつけるのは脅威と見なされ、愛犬にとって危険です。 斜め方向からだと愛犬もターゲットスティックをよりよく見ることができる上、ターゲットスティックで目を突いてしまうこともありません。 また、絶対にターゲットスティックを愛犬の鼻先に押し付けてはいけません。ターゲットスティックに鼻をくっつける動作は愛犬自身に学んでもらわないとなりません。ほとんどの愛犬は好奇心に溢れているので最低でもターゲットスティックをちらりと見やり、匂いを嗅ぐために鼻を突き出してくるでしょう。もしこのような行動に出たらクリックして、すぐにごほうびをあげます。ターゲットスティックに興味を示すあらゆる行動を強化しましょう。

トスティックのこと）を出すけれども、3秒間だけしか見せない、という意味です。この3秒のあいだ、愛犬がターゲットスティックに注意をはらうことに対し、ごほうびを与える姿勢を崩さないようにします。3秒たった後は目的のものを与えます。そして次の機会を待ちます。このやり方は愛犬の素早さや注意力を促すのに有効です。

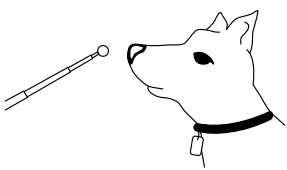
愛犬の反応を待つ際、ターゲットスティックを3秒以上見せてはいけません。またターゲットスティックを愛犬に向けたり、ターゲットスティックを持って愛犬を追いまわしたりしないでください。私たちはあくまでも愛犬自ら行動を起こしてもらいたいのです。クリック/ごほうびを行っても愛犬が何もしない場合は、次にターゲットスティックを見せるときにターゲットスティックでポンと床を1回軽く叩きます。そうすることによって愛犬はターゲットスティックに目をやるかもしれません。もし成功したら、ここでクリック/ごほうびを行います。「ターゲットスティックが出てくるといいことがある」と察知した愛犬は「おいしいものをもらうのにはどうしたらいいか」をすぐに理解します。

タッチシェーピング（反応形成）

あなたの愛犬はもうすでにターゲットスティックとクリックがごほうびの前ぶれであることに気づいたはずです。あなたがしてもらいたい行動や行儀作法を選んで特定の行動に対してごほうびを与えていきましょう。シェーピングを通じて目的を達成できるようにします。

端的に説明するとそのステップは以下のとおりです。

1. 犬がターゲットスティックを見る（キュー=合図）
2. 犬がターゲットスティックに鼻をつける（好ましい行動）
3. 犬がクリック音を聞く
4. 犬がすぐにごほうびをもらう



シェーピングの段階でトレーナーは学んでほしい行動に近い動きを愛犬が少しずつマスターし、上手にできるようになったらごほうびを与えます。愛犬がターゲットスティックの先端に鼻をつけることが目標ですから、その前に見せる段階を小さなステップとして基準をもうけ、すこしずつ上手にできるようになったらごほうびを与えます。

手の中に5個のフードを用意してください。その5個がすべてなくなるまでこのシェーピングの練習を繰り返し、終わったら一度ターゲットスティックをしまい、時間を置いたあと再びトライしてみてください。毎日、何回か練習を繰り返すと愛犬ののみこみも早くなります。

愛犬が（そしてもちろん飼い主も！）意欲があればトレーニングの回数を増やしてもいいでしょう。しかし、愛犬のやる気や興味が失せていない段階で、愛犬がお腹を空かせているうちに訓練を終えましょう。過剰なトレーニングは避けます。愛犬が「もっとやりたい」と思っているうちに止めるのが最適です。

ヒント

クリックを予告しないで！ 練習の初期レベルで飼い主は非常に重要なスキルを完璧にこなさなくてはなりません。クリック音を鳴らす前にはいかなるボディーランゲージをも見せてはなりません。将来的に「ご主人さまがこれからクリックをするだろう」と愛犬が予測できないようにすることが大切です。

例えばクリック音を出す前に、あなたに頭や腕を動かしたり、「よし」とつぶやくクセが出来てしまうと愛犬はそれに気づきます。そうなるとあなたの動作がごほうびの「前ぶれ」の一部となってしまいます。クリックといくつかの動作が連続した「複数の合図の組み合わせ」として覚えてしまうと、後々の訓練で愛犬が混乱してしまいます。

ボディーランゲージや声などは抑えてクリック音だけに注意が向くよう「クリーン」な状態に保つことを心がけてください。クリック音だけが際立つ―そのような状況が最適です。その後にごほうびを与える動作に入ります。多くの愛犬は飼い主の手を観察しています。「ご主人さまがポケットに手を入れたときはおいしいものがもらえる」と理解してしまいがちです。そのため、あらかじめ複数のごほうびを手の中に入れておいて1個ずつ与えるなどの工夫も必要です。あくまでもクリック音→ごほうび、という関連付けだけが愛犬の記憶に残るようにしてください。

基準の設け方と強化スケジュールをどう変動させるか

基準とはトレーナーが愛犬から引き出したいと考える反応を指す用語です。愛犬がその基準を達成すると、ごほうびが出てきます。つまりクリック/ごほうびです。

どのような行動にもさまざまな次元やレベルがあります。ターゲットスティックをタッチすることにかかわる「行動の質」について次ページにリストアップします。ひとつずつ取り組んでいけばあなたの愛犬はこれらの内容を詳しく理解するようになります。例えば特定の訓練時間中にはこの中のたったひとつの項目だけに集中してトレーニングを行うのです。

実際の行動を引き出す—ターゲットスティックの先端に鼻先をくっつける

反応に対する待ち時間—速さ—合図があってからどれだけ早くターゲットスティックにタッチするか

反応の長さ—時間の長さ—愛犬がどれだけ長く鼻をターゲットスティックにつけていられるか

新しいことを愛犬に教え込むとき、トレーナーは数多くの判断をしなくてはなりません。洞察力のあるトレーナーはいつ、何を強化すればいいかを即決できるものです。しつけの段階に応じて、「今はどの基準でごほうびを与えるか」をあらかじめ考えておいてください。

「正しい」「望ましい」行動をしてもらうために
ターゲットスティックにタッチする、など新しいことを学ぶとき、あなたは愛犬が行った正しい行動すべてに対してごほうびを与える必要があります。何が「正しい反応」なのかはあなたに委ねられています。適切と思われる反応がひとつでもあった場合は必ずごほうびをひとつ与えます。

ノーズタッチの基準を高くする
あなたと愛犬はもたつかないようにシェーピングプロセスを素早くやりとげるべきです。愛犬の視線を感じることができて、クリック/ごほうびが10回中8回成功しているならば次のステップに移行するときが来ています。愛犬が「こちらに目を向ける」というのはあくまでも「出来れば」という仮の基準に過ぎません。

最終的な目標に向かう途中の過渡的段階では完全を求めなくても大丈夫です。シェーピング過程の中で一定レベルの反応に対してだけ何度も過剰にねぎらうと、そこで成長が止まってしまい、それ以上の力を発揮しなくなる恐れがあります。愛犬が「一番たくさんごほうびがもらえる行動しかしたくない」と心を決めてしまいます。よって、このような中途の段階の訓練をしているときはそれぞれのステップで内容の8割がたをクリアできればいいのです。これだけで基礎力は十分です。途中経過の段階であまりにたくさんごほうびを与えるとそれ以外の新しいことをやる気が失せてしまう可能性があります。

ひとつの訓練セッションでひとつの基準に集中するというのはいいやり方です。しかし、愛犬に「今以上のことが出来る」、あるいは「してみたい」という熱意が見られるときは躊躇せずやらせてみましょう。それだけ目標に近づいているのですからその機会を逸してはいけません。判断力が試される瞬間です。

あなたは愛犬の視線をとらえるところからレベルアップし、すでに愛犬がスティック先端へ首を伸ばす行動に対してごほうびを与えるレベルまで来ているかもしれません。そのとき突然愛犬がスティックと接触したとします。もちろんあなたはクリック/ごほうびを実行します。それが現段階で設けられた基準でなくてもです。しかしここで―ちょっと待った！―クリックした後にあなたは愛犬が鼻でターゲットスティックに触れたのではなく、ターゲットスティックの先端を甘噛みしていることに気づきました！ そんなときはどうすればいいのでしょう？ 次のような考え方をしてください。

- クリックしたのならごほうびをあげなくてはなりません。絶対に約束を違えてはいけません。クリッカーの威力を失ってしまうことになります。
- 誤って好ましくない行動に対してクリックしてしまいました。しかし、そのとき愛犬に謝ってはいけません。パニックを起こしてはいけません。何事もなかったように、そのまま訓練を続けましょう。
- 間違いを犯したことでタイミングや集中力がぶれないようにしましょう。大丈夫です。訓練を続けて下さい。失敗が一度だけなら、そのあと正しい行動を繰り返すことで上書きしていくことができます。
- 毎回、訓練の終わりに静かに考える時間を持ちましょう。

行動のシェーピング

ここでは今までと異なる言葉でシェーピングプロセスの概要を解説します。次の訓練を始める前に、このプロセスについて無理なく馴染めるようにしておいてください。

シェーピングの段階で愛犬は完全にあなたのトレーニングパートナーとなり、何がごほうびを引き出すのかを常に見定めています。このような方法で訓練された愛犬は通常訓練セッションに対して熱心で、まわりで何が起きているかについてはあまりに気にしていません。愛犬の行動を小さなかたまりに細かく分断し、それぞれに対して素早くねぎらえるようになる必要があります。観察力・判断力のあるドッグトレーナーが実力を発揮するのはシェーピングのときです。

もしも段階的なステップをさっと流すように終わらせていたのなら、愛犬の行動は劣化してしまう恐れがあります。なぜなら、いきなりたくさんのことを求めてしまっているからです。しかしながら、あまりに遅々とした進め方の場合も行動が劣化してしまいます。愛犬が興味を維持できないからです。

いつ基準を上げたらいいかの目安は、愛犬が今いる段階の課題を約8割クリアしているときです。それぞれのステップで100パーセントの達成率を目指すのは非現実的であるばかりか、次のステップに進んだときに強化されすぎた基準を変えるのに苦労してしまうこともあります。これは愛犬にとってもまわりの人間にとっても、時間と労力の無駄です。

ランダム（不規則）なごほうび

8割がた愛犬がターゲットスティックにタッチできるようになれば、次はいわゆるランダムな「宝くじ方式」へと進みます。今までの連続的なごほうびから離れ、少しランダムなやり方へと変えていきます。

ランダムなごほうびとは、愛犬が好ましい行動を見せても毎回確実にはごほうびを与えない、という意味です。愛犬がいったいどの行動に対してごほうびをもらえるか予測できないように、報酬は一定の時間を置く間欠的かつ予測不可能な形で与えます。特定のパターンはありませんが、報酬を与えるときには好ましい行動と関連付け、ただちに与えます。

この手法はすでに学習済みの行動を存続させるときに最適です。多くのトレーナーは2回で1セットからはじめます。つまり、愛犬が報酬を得るために同じ行動を2回繰り返して行うことを求めるのです。2回で1セット、3回

で1セット、4回で1セットなどのように、それらをランダムに繰り返し行ってください。

スロットマシンを思い浮かべてください。これはまさに「ランダムなごほうび」の好例です。ある時はギャンブラーに対して報酬を与えることもあるけれど、負けてしまうこともあります。しかし、人々は大きな見返りを求めてついついプレイしてしまうのです。

こういった間欠強化は愛犬に対して投げ出さずに忍耐強くなることを教えます。釣り人と同じことです。釣り人は、一日中糸を垂れていてまったく釣れなくても、次の週末にはまた時間をさいて釣りザオ持参でいそいそと出かけます。なぜでしょうか？ いつか大物が釣れるにちがいない、と信じているからです。あなたの愛犬についても同じことが言えます。ごほうびによる訓練で一番失敗しやすいのは、常に与えられていたごほうびをランダムなごほうびへと切り替えられないことです。この点を訓練プランの中で十分考慮してください。

注意：ごほうびなしのクリックでは「ランダムなごほうび」訓練にはなりません。クリックとごほうびの結びつきを弱めるだけの結果になります！

分化強化

この方法は「ランダムなごほうび」の応用編です。まったくランダムに報酬を与えるのではなく、愛犬が見せたもっとも素晴らしい行動をひとつだけピックアップし、その行動に対してのみごほうびを与えます。それ以外の動きは無視します。何が最高なのかを決めるのはあなたです。訓練を始める前、頭の中で「最高の行動」を明確に描いておいてください。

例えば、素早い反応（待ち時間）を重視する飼い主もいれば、動きがだれてスティックの最先端にタッチしなくなった愛犬にピンポイントの正確なタッチを求める人もいるでしょう。明確な基準を一点クリアすることだけに主眼を置いて練習し、その行動のみを労うことで行動や動作を改善させましょう。この間、他の目標は緩和させるかハードルを下げる、あるいは一時的に無視してもいいでしょう。

ターゲットスティックの最先端へのダイレクトなタッチを練習したいのであれば、反応の速さはいったん保留し、そのことは心配しないようにします。分化強化の手法を利用して、それぞれの訓練セッションでひとつの基準をクリアすることに焦点を当てましょう。

ジャックポット（大当たり）

トレーナーたちは「ジャックポット原則」をさまざまな形で応用します。一般的にジャックポットとはかなり希少価値が高く、予期しないごほうびのことを指します。愛犬がびっくりするほど素晴らしい動きを見せたときなどにトレーナーはジャックポットを使います。中には訓練中の大きな壁を突破したときまでジャックポットをとっておくトレーナーもいます。しかし、平均的なパフォーマンスに対し、たまにジャックポットを使うことも悪いことではありません。多大な努力を要したときだけでなくてもいいのです。実際にスロットマシンで遊んでいても、幸運に当たる人はランダムです。その人が特に上手にレバーを引いたから、ではないのです。

ジャックポットには次のような使い方があります。

- 普段ドライフードをほうびとして与えているのなら、より価値の高いレバーをジャックポットとして使えます。
- 普段、小指の先のチーズを与えているのなら、親指の先ぐらいの大きさのものをあげることがジャックポットに相当します。
- 一度にひとつだけごほうびを与えているのなら、食べ物をいくつかまとめ、連続で与えればそれがジャックポットに相当します。
- 飼い主に食べ物を差し出されるよりも、自らごほうびの袋に鼻を突っ込んでごちそうをほおばることこそ最高のごほうびだ、と考える愛犬もいます。
- 普段から食べ物をごほうびとして与えていても、ボールやひっぱりっこが大好きな犬に対してはそのようなおもちゃでいっしょに遊んであげることがジャックポットになります。
- ジャックポットはたまに使うことで最適な効果が得られます。

スランプに陥ったのなら、クリアすべき基準を減らすか、ジャックポットの内容を事前に見せ、好ましい行動へと関連付けさせます。もし愛犬がドッグフードを目標にがんばっているのなら、あなたのポケットに入っているおいしそうなレバーをちらっと見せます。そのおいしいごちそうを目の前に差し出してもらうにはどうしたいいかを愛犬は理解しようとするでしょう。

刺激コントロールと円滑さ

愛犬が特定の合図に対してどのように反応するか。その反応のさまざまな側面を指す用語を「刺激コントロール」と呼びます。もし以下に当てはまらない場合、その犬は刺激コントロールの支配下にあるといえます。

- 合図されても行動を起こさない
- 合図されていないのに行動を起こす*
- 異なる合図に対して行動を起こす*
- 合図に対して毎回異なる行動を起こす*

* ごほうびを使ってしつけられた愛犬は、後ろの3つのような間違いの方が多くなります。それは愛犬が訓練・しつけに夢中になっているからです！「ごほうびをもらうには何をしたらいいの？」というゲームは愛犬にとって楽しくて仕方がないのです。

円滑さとは愛犬がいかなる状況にあってもターゲットにタッチすることを指します。もしターゲットスティックが目に入ったなら、愛犬はそこに鼻をくっつけずにはいられないのです。

円滑さを構築するには以下を試してみましょう。

- まわりの雑音など気を散らすものを増やします。
- 場所を変えます。
- 散歩に出ているとき外でターゲットスティックを見せます。

- ターゲットスティックを低く持ったり、高く掲げたり、愛犬の右側や左側に動かします。
- 愛犬から数センチ離れた地面にターゲットスティックを置きます。
- 飼い主であるあなたが握っていなくてもスティックにタッチするかどうかを観察します。
- スティックを持って数歩進むあなたの後を愛犬がついてくるかどうか試します（これはひとつの場所で犬が360度回転する「スピン」を教えるのに有効な方法です。右回りも左回りも訓練できます）。

キュー（合図）を変更する

この時点で愛犬はターゲットスティックにタッチする合図を心得ています―ターゲットスティックが視界に入ることが合図になっています。訓練の初期から一貫してターゲットスティックを最長でも3秒間しか見せず、そのあとターゲットスティックを見えないところに隠すようにします。そのとき愛犬はターゲットスティックにタッチするチャンスを逃したことになります。3秒間は結構長い時間です。

「ターゲットスティックが見える」という合図に今までと異なった合図を付け加えることができます。愛犬がさまざまな形でスティックに8割がたタッチできるようになったとき、「タッチ」という新しい合図の言葉を付け加えるようにしてください。新しい合図は古い合図の前に出さなくてはなりません。「タッチ」と言ってからターゲットスティックを見せ、クリックとごほうびに移行し、正しい行動をねぎらいます。

この方法が成功するのは新しい合図が、古い合図（「ターゲットスティックが見える」）の出番を予告しているからです。

他の対象物への定着

時間が経つにつれて「タッチ」という言葉は愛犬にとってスティックやそれ以外に訓練したターゲットを捜せ、という意味を持つようになります。ター

ゲットスティックに鼻をくっつける行為をステッカーや飼い主の手、おもちゃにタッチする行動へと適用を広げていけるのです。あなたの訓練しだいです。

合図の移行をスムーズにするには、まず「タッチ」といってからターゲットスティックで新しい対象物に触れます。あなたの手にタッチさせるのもいいでしょう。レーザーポインターや懐中電灯の光にタッチさせたい場合は少し距離を置いて後ろから愛犬をコントロールしましょう。

さまざまな用途にターゲティングを応用する

鼻でターゲット（対象物）にタッチするスキルを身に付ければ、愛犬にさまざま行動を促すことが出来ます。

- 車の座席に自分から乗るように促せます。
- 楽しくクレートに入ってもらえます。
- 脚を乾かすとき、愛犬にじっと立っていることを教えられます。
- 上ってはいけないソファの上から降りる行為を楽しいゲームのように演出できます。
- 障がいを持つ人に非常に便利です。
- さまざまなターゲットを設定することで今まで難しかった動作が徐々に出来るようになります。
- 身体に直接触れることがないため、緊張しやすく扱いにくい愛犬に新しい行動を教えるのに最適です。
- 個別のクリッカーを持たなくていいため、障がい者の方々に様々な形で使っていただけます。

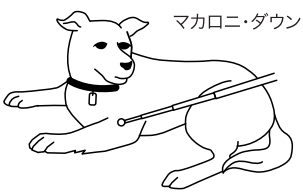
ターゲットスティックは短くしたり伸ばしたりして使うことができるので、ひとつの道具でさまざまな訓練ができます。短くした状態ではトリーツポーチにちょうど収まるサイズになっています。

クリックスティックのさまざまな利用法

以下はドッグトレーニングのさまざまなカテゴリーです。その訓練課程でクリックスティックをどう使えばいいか、を説明しています。これらのアイディアの中からあなた独自の使い方を編み出してください。

ペットの行儀作法

おすわり	ターゲットスティックを愛犬の頭上にかざして頭を上げさせれば、下半身が沈んで自然におすわりの姿勢になります。
伏せ	頭を低く下げさせるときもスティックで誘導できます。
マカロニ・ダウン	愛犬の鼻先をあばら骨のところまで誘導します。すると愛犬は腰をずらし、リラックスした姿勢になります。
ハウス	ターゲットスティックを使ってクレートの中に誘導します。



瞬間芸（トリック）

おすわりと礼	「おすわり」の位置からはじめます。ターゲットスティックを頭の上で上下させ、正しいポジションになったところでクリックします。
ロールオーバー	なだらかな斜面で「伏せ」の姿勢からはじめます。
クロール	犬が低姿勢を保てるように、ちゃぶ台のような低い障害物を使いましょう。
8の字	ターゲットティックや、慣れてきたら手を自分の両脚のまわり、脚の間をくぐらせて数字の8を描くように動かします。

愛犬とのダンス

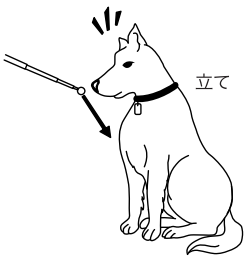
スピン	身体の側面で小さな輪を描きます。時計周り・逆周りの両方を練習します。
サイドステップ	人間が愛犬によりそうように横向きで一歩踏み出します。ターゲットスティックにタッチさせ、頭部をまっすぐに保ちます。
サークルハンドラー	スティックか手をターゲットにします。時計回り・逆回りターゲットの両方を練習します。
フォロイング	脚の間にターゲットスティックを挟み、犬について来ることを教えます。

ヘルパードッグ（介助犬）

エレベーターボタン	ターゲットスティックで特定のシールをタッチできるように訓練し、そのシールをエレベーターのスイッチに貼り付けて押せるようにします。
ドアの開閉	上記の訓練を、さらに（エレベーターの「開く」ボタンなどを）強く長時間押していられるよう訓練します。
車椅子の付き添い歩行	車椅子に対する愛犬の適切な位置をターゲットスティックで教えます。
クリッカーのみ	車椅子の肘掛部分にターゲットスティックをガムテープなどで固定して使用します。

アジリティー（敏捷性）

ストレッチ	筋肉のウォームアップのために伸びなどさまざまな動きを教えます。
コンタクトゾーン	愛犬に正しい場所で休止を教えます。
方向	手ぶりでしらせる合図や、「右！」「左！」といった口頭の合図を教える補助として用います。
遠隔操作	ターゲットスティックを３連続ジャンプのところに置き、そのスティックに向かって愛犬をジャンプさせます。



服従競技向けトレーニング

立て	「おすわり」から始め、頭を胸の中ほどまで下げればお尻が持ち上がります。
８の字	スピードを維持するためには、たまに脚の外側をターンしているときにターゲットスティックを出します。
フィニッシュ	愛犬に体の周りを一周させ、適切な位置で姿勢良く「おすわり」ができるよう、ターゲットスティックでコントロールします。
幅跳び・ 直線跳び	ターゲットスティックを目の前に出し直線状のジャンプを促してから、すぐ愛犬の脇に移動して「おすわり」の合図をします。

ヒント トレーニングは飼い主も愛犬も楽しむものです！この小冊子ではトレーニングを楽しめるようにするアイデアを紹介しています。ドッグトレーニングクラスを受講することも、愛犬のためになるでしょう。

利用規約と免責事項

1. 利用規約

本規約に記載された約定、条件、ならびに通知に変更を加えることなく承諾することを条件として、本製品は購入者に提供されます。本製品を使用された時点で、全ての約定、条件、ならびに通知を承諾したとみなされます。

購入者が約定、条件、および通知に同意されない場合は、購入の事実を証明する領収書等を添え、製品を未使用の状態で当初の包装にて、送料はお客さまご負担の上、カスタマーケアセンターまでお送りください。製品の代金は全額返済いたします。

2. 適切な使用

本製品の使用目的はペットのしつけです。ペットに固有の気性、大きさ、体重により本製品の効果が発揮されない場合があります。購入者のペットに攻撃的な性質があり、適切な使用に責任を負えない場合は、本製品を使用しないでください。

本製品を使用することが適切かどうかわからない場合は、獣医師やプロのドッグ・トレーナーにご相談ください。適切な使用とは、使用説明書および警告文をもれなく読んで理解した上でのご使用を意味します。

3. 違法使用、不正利用の禁止

本品はペットへの使用のみを考慮した製品です。ペットのしつけを目的としており、危害を加えたり、傷つけたり、挑発したりするための道具ではありません。意図しない方法により本製品を使用した場合、法令違反になる可能性があります。

4. 免責事項

いかなる場合も弊社および関連会社は、直接損害、間接損害、懲罰的損害、偶発的損害、特別損害、結果的損害、もしくは、本製品の使用や誤用に関係・起因するどのような損害に対しても責めを負わないものとします。購入者が本製品の使用によって生じるすべての危険と責任に対する責めを負います。錯誤回避のために詳述するならば、本条は人の死、けが、不正、不当表示による弊社の法的義務を限定するものではありません。

5. 利用規約の変更

弊社は、本製品が提供された際の約定、条件、ならびに通知を変更する権利を保持します。購入者が使用前に変更通知を受けた場合、ここに記された条件と同様の拘束力が発生します。

他のプレミア製品は
www.premier.comでご覧いただけます。

ラジオシステムズコーポレーション
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 3-25-9
14201 Sommerville Ct., Midlothian, VA 23113 USA
カスタマーケアセンター
0120-208-278
www.premier.com

©2011 Premier Pet Products, LLC
400-1306-18